

「わが園の保護者交流プログラム」記念すべき第一回目は、もんもん保育園の取り組みをご紹介します。

もんもん保育園は、神奈川県平塚市にある、2歳から5歳の子どもの対象とした保育園です。(定員の50名の1歳児の子どもは、苗・もんもん保育園に通っています。)

平塚市は都心への通勤圏内ですが、南にさらさら光る湘南の海が広がり、北には里山、その奥には、大山、丹沢山系がそびえるなど、豊かな自然に恵まれています。

家族交流会

毎年、秋の祝日が「ハッピーマンデー」になる土曜日を選び、もんもん保育園と苗・もんもん保育園の2園合同で一泊二日の家族交流会を行っています。職員は両施設とも全員参加です。どの家庭も気兼ねなく参加できるよう、利用料金が安い神奈川県消防士箱根保養所を、貸し切りで利用します。

夕食は、大広間で参加者全員が一緒に「いただきます〜す〜」。おいしい、賑やかな食事の後は、ゲームなども楽しみます。さらにその後は、父母の会の協力のもと、「おしゃべり会」に入ります。クラス単位のおしゃべり会は、行事の後などに、よく開いています。家族交流会のおしゃべり会では、あえてクラスの枠を取り払ってみます。さらに、少人数グループにしてみたり、母グループ・父グループに分かれてみたりすることで、「いつもはなかなかいえない」本音が飛び出すこともあるそうです。普段は忙しくて挨拶が精一杯。保護者同士で、じっくり話をする時間も機会もなかなか作れない。というのが現状です。初めて参加する人も話しやすいように、という配慮の下、まずはテーマを設定して、保育士がその場をリードします。テーマに沿って話しているうち、徐々に緊張がほぐれ、打ち解けた雰囲気になるにつれて、話題も「育っていき

ます。みんなの共通の話題である「子育て」は、もちろんのこと、「仕事」、「家庭」などなど、話ほどんどん広がり、また深まっています。

そんなおしゃべりを通して、参加した保護者は、子育てや仕事、家庭…いろんなことで、みんな悩むんだなあ、ということに改めて気がついたり、子育ての先輩の体験談からアイデアが生まれたり、さまざまな実りをもたらされるようです。

おしゃべり会の間、子どもたちは別室で保育士と遊びます。子ども同士が交流を楽し

わが園の保護者交流プログラム もんもん保育園

んでいる様子を見ると、保護者も安心して大人のおしゃべりに専念できるのだそうです。

一泊二日の家族交流会のメリットは、時間を気にせず、また温泉やアルコール(一)も楽しみながら、誰もがリラックスして交流を楽しむことができる、という点です。翌日には、複数の家族と一緒に箱根観光に出かける姿もあるそうですよ。

お掃除会 & おしゃべり会

7月の土曜日には、はじめての「お掃除会とおしゃべり会」を行いました。よいこの森保育園さんの実践から学んだことを、もんもん保育園でも実施してみたのが、この「お掃除会&おしゃべり会」です。保護者と職員と一緒に園舎や園庭の掃除を行い、その後は厨房でこしらえた給食を召し上がっていただきました。

あらかじめ、出欠を把握しておき、クラスの保護者と担任と一緒に作業できるように分担を決めておきました。それを分担表に

して掲示しておいたので、当日はスムーズに作業をはじめることができました。

お掃除会当日。保護者は、それぞれ汚れても大丈夫な服装で、自慢の「お掃除グッズ」片手に集合しました。ポロコシャツから、窓掃除用「字型スクイージー」まで、いろんなグッズとともに活躍するべく、早速お掃除のスタート。

普段、保護者同士で、ゆっくり話をする時間を作ることは難しいけれど、今回は手を動かしながら、たくさん交流ができたそうです。熱心に作業に励むあまり、予定時間がオーバーし、園の先生方を慌てさせるくらいだったそうです。後

日。保護者からは、「顔を合わせ、じっくり話し合いましたよ」という硬い雰囲気ではなく、お掃除しながら自然に会話が弾んだので、とてもよかったです。そんな声が寄せられました。

園舎も園庭もすっかりきれいになる頃には、みんなのおなかもペコペコに。労働の後の夏野菜カレーととももるこしに、みんなで舌鼓を打ち、ほとんどの人が「おかわり」するくらいのリラックスモード。

その後のおしゃべり会では、2時間があったという間に感じるほど、おしゃべりが弾んだそうです。

磨きあげた保育園を、さらにピカピカにしたのは、保護者の笑顔だったのでしょうか。

もんもん保育園さんの取り組みに共通しているのは、保護者が集まる場での設定を、押しつけにならないようなスタイルで行っていることです。看板が参加者が気負わず、リラックスしてコミュニケーションできます。まずは、そんなコミュニケーションから、次第に人と人との「つながり」へと発展していきます。保護者交流の目的とは、実はそこにあります。これからも、あたたかなつながりを、広げ、深めていか

れることと思います。